

石川町第5次総合計画「後期基本計画」(案) についての意見と町の考え方

1 意見公聴会の概要

<趣旨>

町では、昨年発生した東日本大震災、原子力発電所での事故の影響により、社会経済情勢が大きく変化したことから、現在、平成21年度にスタートした第5次総合計画の「前期基本計画」の見直しを行い、平成25年度から新しくスタートする「後期基本計画」(期間：平成25年度～平成30年度)の策定をすることになりました

町民のみなさんの意見・提言等をより反映させた計画とするため、計画案を公表し、これに対する町民のみなさんのご意見をお聞きました。

<対象とする計画(案)>

石川町第5次総合計画「後期基本計画」(案)

<実施日時・場所>

日時：平成24年11月13日(火)～11月14日(水)

場所：石川町共同福祉施設 会議室

<出席総数>

5人(男4人・女1人)

<意見数>

16件(関連意見：10件)

2 計画（案）に対する意見と町の考え方

石川町第5次総合計画「後期基本計画」（案）について

基本目標	番号	意見等（要旨）	件数	町の考え方
1 にぎわいと活気のあふれるまち（産業）	1	農林業の振興 遊休農地が拡大している傾向にあるため、対策を講ずる必要がある。	1	中山間地域などの耕作放棄の防止に努めるとともに、活用できる遊休農地の活用方法について検討していきます。
	2	商業の振興 商店数が減ってきており、不便に感じているし、今後は心配である。	1	地域住民、商工会や各種団体と連携し具体的な再生プランを提案しながら、中心市街地の空洞化対策を進めて行きます。
	3	商業の振興 商業でも後継者不足が生じており、若者が経済的に活力を見いだせる施策が必要で、他の地域との差別できる特殊性、独自性のある組織づくりも必要ではないか。	1	コミュニティの場と商店街が一体的に魅力のある中心市街地形成に向け、空き店舗の活用やコミュニティビジネスの創業・起業の支援をしていきます。
	4	企業の振興 人口減少が続いている中では、雇用の創出が急務ではないか。	1	企業立地に向けた誘致活動を引き続き積極的に展開するとともに、既存企業と行政の情報交換を密にしながら、雇用機会の拡大と雇用環境の安定を図るための支援を行っていきます。
	5	企業の振興 若者が減少してきているため、働く場所を確保しないとイケない。税の優遇措置など企業へ支援してはどうか。		
	6	企業の振興 既存企業への支援の継続が、雇用の安定確保に繋がると思う。		

	7	企業の振興 町内や周辺町村でも企業の撤退による失業が発生し不安を感じている。		
2 健やかで人にやさしいまち（保健・福祉・医療）	8	保健・医療の充実 子どもを産む、育てる（幼児期）の医療体制に不安を感じていることから、医療施設を充実してほしい。	1	産婦人科、小児科の専門医療機関がないことからご不便をおかけしていますが、生涯を通じた健康づくりを推進するため、町内の医療機関と連携しながら、あらゆる機会を通じ、途切れない支援体制に努めていきます。
3 豊かな心と文化を育むまち（教育・文化・スポーツ）	9	生涯スポーツの振興 低線量地域のため、上部大会などの開催機会が増加したため、ニーズにあったスポーツ、文化施設の環境整備が必要である。	1	各種団体等と連携しながら、体育施設の効率的な運営と活用を図ります。
	10	学校教育の充実 石川小中学校統合に向けた石川小学校の新校舎の位置はどこなのか。	1	平成27年度の円滑な統合に向け、総合準備委員会を設置し、教育課程、PTA組織及び通学等について協議を進めるとともに統合小学校についても準備を進めて行きます。
	11	学校教育の充実 統合により、登下校送迎などで混雑が予想されることから、周辺整備が必要である。		
4 安全・安心で快適なまち（生活・環境）	12	町営住宅の充実 若者や高齢者のニーズに合った住宅政策が必要と考える。	1	老朽化している町営住宅の建替や改修にあたっては、利用者ニーズに合わせた住宅整備に努めます。

6 町民の信頼に応えるまち（町民・行政）	1 3	庁舎建設の促進 町の将来像の姿を描いた中で、新庁舎の位置を決定した方が良いのではないかと。空洞化する恐れがある。	1	石川町庁舎建設委員会の答申を踏まえ、新庁舎の位置については、国道118号線沿いの「あぶくま安心館敷地」を候補地として進めます。 長久保地内に移転する場合は、検討委員会の付託意見にあるように中心市街地が空洞化し商業の衰退が危惧されることから、町有地を含めた遊休地の利活用等による活性化策を進めて行きます。
	1 4	庁舎建設の促進 新庁舎は商業が集積する中心市街地、または人が集中する場所へ立地すべきである。		
	1 5	庁舎建設の促進 新庁舎の位置はどこか。		
人と森と土をつくるプロジェクト	1 6	道の駅の考えはどうなっているのか。	1	原発事故による風評対策等で遅れていますが、農林業の6次産業化により地域ブランドを育成、製品の安全・安心の確立と地産地消を図ることをメインに施設整備を進めて行きます。